

令和2年度 西砂学習館運営協議会第6回（令和2年11月）会議録概要

日 時：令和2年11月17日（火）午後6時～8時00分

出 席：大橋 加藤 広瀬 進藤 森 増田 小笠原 小林 長谷川

事務局：石川 俣本

欠 席：岩元

1. 開会のあいさつ

大橋：コロナの感染が拡大を見せている。今日は東京都の感染者298名と発表があった。昨日の感染者は100人台だが300人も聞こえる中で心配になった。

昨日は四ツ谷で人権擁護委員の会合があり20名中10名のみの参加であった。遠方からの参加、年配の人が多いため半数はうなずける数字と思う。150名収容できる室内を10数名で会議をした。会議を行うこと自体が難しくなっているとの話をし、リモート会議や、講師の先生を呼んだ時に法務省で許可が出るかどうかの話になると会議の開催可否に関わり活動が出来ない状況になってしまう。

10月24日（土）に「気軽に学べる認知症予防講座」を開催。感想を読んだところ大変好評だった。岩元委員に尽力して頂き、歌も身体を動かすこともあり座学だけではないことが充分活かされた楽しい講座になったと思う。脳を活性化するような内容なので、毎年続けて同じ講座を行い同じ参加者でも良い。後半に幾つか講座があるので委員の力を借りて実施していきたい。新しい取組については委員に意見を聞き会議を進めていきたいと思う。

石川：「西一元気通信～西砂学習館便り～」参照。会長作成。第1回のお便りのイメージ内容について書かれている。「特定非営利活動法人立川市障害者講演会ニュース」参照。このお便りは発表し慣れていて上手に出来ている。横書きだけの記述ではレジュメのようになってしまう。縦横に記述があるのが会報。

2. 令和2年度地域活性化講座について

(1) 「西砂川での災害を考える」〈第5弾〉コロナ禍での避難所の運営について

- ・実施予定日：1/17（日）
- ・受付開始日：12/10（木）【広報掲載12/10号】

石川：防災課には出前講座の形で申請をした。西砂特有のことを足して依頼し、受理され決定通知も頂いた。応募人数の経過は逐次報告する。

(2) 「気軽に学べる認知症予防講座」について

- ・実施日：10/24（土）
- ・参加者：14名（男性1名、女性13名）

石川：盛況な形で実施が出来た。来年も同様の内容で講座を開催し、その日だけでも脳の活性化をしていけたら良いと考えているので、来年の計画に入れさせて頂けたらと思う。費用は無料で地域包括支援センターに負担頂いている。

進藤：座学だけや見ているだけよりも岩元委員の体操の構成がとても良かった。

大橋：場所の確保は出来るし費用面は感謝している。進藤委員が中に入ってコーディネートしてくれありがたいと思う。今年度の形で毎年続けていけたら良い。

広瀬：二年前に実施した内容に比べたら本当に良くなったと思う。

(3) 「地元を学ぼう！西砂の野仏を訪ねて」について

- ・実施予定日：11/28（土）
- ・11/5の時点で、参加者は定員（25名）に達しました
- ・委員の出席予定者（敬称略） 大橋、岩元、広瀬、加藤、森、増田
- ・委員集合時間 13時
- ・ガイドマイク借用

石川：11月5日の時点で定員に達し、キャンセル待ちも5名の枠に達した。資料は講師の豊泉先生が作製している。当日は参加者にガイドイヤホンをお渡しする。前後に離れてしまうと声が聞こえなくなるが、ガイドマイクを利用すると先生の声が聞こえるようになる。

大橋：参加者は最大25名で定員に達したとのこと。後は密にならないようにする形でガイドマイクとレシーバーで講師の話が歩きながら聞ける。

加藤：「地元を学ぼう」の講座で西砂町・一番町住民限定の先行申込状況は集客があまり良くないので、新しい家にチラシをポスティングする等必要に応じてアクションを起こしたら良いと思う。

石川：豊泉先生からはアコムで開催した時にはとても集客出来て断る位の人気講座であった。西砂川地区の方に先行予約を開始したが、アコムで開催した時には西砂からの参加者はいなかったため、一般の募集開始で違う地区の希望者が沢山申し込んでくれた。

(4) 「にしすな夜間塾」〈第4弾〉「靴の履き方&選び方」について

- ・11/17時点で、申込者1名
- ・委員の出席予定者（敬称略） 大橋、進藤、岩元、広瀬、加藤、小笠原、増田
- ・委員集合時間 6時15分

石川：現時点で参加者は栄町在住の男性1名で子どもは連れてこない。小笠原委員のアドバイスもあり七中にもチラシを配布。手を尽くしてきたが参加者はいまのところ1名のみ。実際開催か中止かの判断はどのようにするか。

大橋：中止しなくてはいけない条件はないなら参加者が1名でもニーズがあれば開催する。

石川：靴は大事なことと思う。場合によっては委員の研修を兼ねる意味合いもある。

大橋：言ったことを何らかの形で知って貰うことと間接的に広く沢山の人の人に伝えることが大切。1名でも要望があれば開催するべき。あとは委員の研修も兼ねるべきと思う。簡単にまとめたものを学童や児童館や西砂小・松中小に置いておいて自由に保護者に持って行って貰えるような工夫をすれば良いと思う。1名の為に10名分の材料費がかかることや特別な予算が掛かる訳ではなく参加して貰う事で済むのであれば、要望があれば開催するべきと思う。

加藤：市民推進委員会では基本的に申込人数が定員の半分以上という開催規定がある。一つの標準的な考え方であってこの講座は開催するべきと思う。委員は殆ど参加するので研修の意味も含めて開催に賛成する。

大橋：学習館が自ら違った形で情報発信をしていくことも大切な仕事と思う。

石川：場合によっては参加者がいないかもしれないが、伝えたいことは非常に大事なことで壁新聞みたいな物で小・中学校に貼らせて頂くこともいいと思う。

大橋：学習館の役割を基本に考えて発信していく形で講座を考えると情報が広がり楽しいと思う。実現するべく広報の仕方を考えてみましょう。

石川：頂いた資料をアレンジしてA2の大きさの紙にして学校に掲示して貰える様をお願いします。「西一元気通信」が始まります等の予告も入れさせて貰えたらと思う。

大橋：内容が難しいだけに写真を撮り何とか掲示して貰えるように工夫する。頂いたパンフレット等を利用してまとめていく事は出来るだろうと思う。活動が多岐に渡っているが壁新聞の形に出来たらと思う。

広瀬：今まで長い間行ってきてせめて5人位は参加者がいたら良いと思う。委員もチラシ配り等しかないが行えたらと思う。

大橋：広瀬委員が講座に参加した感想を書いたものを展示することで間接的に意欲喚起が出来たらいい。靴選びの視点を学ぶことが大切だし、例えば、孫にも講座の話をしてほしいと思って貰える感想が出来たらすごく訴える力があると思う。

広瀬：まだ一週間あるので少しでも参加者が増えていけたらいいと思う。一人ではやっぱり様にならない。

小笠原：松中小、西砂小の子ども達にはチラシは手に渡っている。

大橋：参加者は栄町在住みたいだが何処から話を聞いたのか。

石川：おそらく市のホームページやみんなの西砂川や各学習館に配架したチラシを見てだと思う。

小笠原：同法人の5児童館・学童に働きかけることも出来ると思う。法人を越えた児童館・学童への情報提供は難しい。

大橋：方法論として同法人の児童館・学童に情報を出して働きかけてみましょう。

石川：近くの保育園にも配りに行く。

小笠原：保育士の確保は大丈夫か。

石川：難しいと思う。

大橋：保育士の確保は必要か。

小笠原：児童館なら保育士の融通は利く。

大橋：保育園には大きなポスターを掲示して貰う形か。

石川：チラシを配って貰うには遅い気がする。

広瀬：特にわんわん保育園は隣同士なので講座に参加して貰えたらと思う。

大橋：講座があることは熱弁して貰いポスター等を届けて欲しい。声掛けられる範囲は声掛けしていきましょう。

(5) その他

・地域福祉ウォッチャー調査の協力依頼（福祉総務課）

石川：福祉ウォッチャーとして西砂学習館運営協議会の中から委員の3名にアンケートを記入の依頼がきている。小笠原委員・増田委員・加藤委員よろしくお願い致します。

3. 協議、報告及び連絡事項

(1) 前回の議事内容の確認（議事録）

大橋：何かあれば事務局へ。

(2) 地域学校コーディネーターとの連携について（協議）

石川：概ねの委員に日程を出して頂き、スケジュールの候補を確認した。次は地域学校コーディネーターの方にお渡しして、最も参加者が多い日程で行う。西砂学習館内の和室又は第1教室を予約しており、早くに日程調整をしたいと思う。

岡部センター長から各学校に事前に連絡するように話があり、西砂小・松中小・7中に行き副校長先生とお話をしてきた。7中の副校長先生はとても賛同してくれた。西砂小は副校長先生だけでなく校長先生も来てくれたが引いた形で話を聞いていた。松中小は副校長先生がとても忙しい様子で10分も話すことが出来なかった。

趣旨として地域の為に学習館も一役買いたいとの話をして学校の先生を楽にしようとの意味合いで、人材を助けようとの話になった。逆に学校や先生の負担になるようだったら本末転倒で、負担にならない形で運営協議会委員と地域学校コーディネーターと話をして出来ることから始めていきたい、お願いをしたいと思う。

どの学校も了解を頂いたので、26日に地域学校運営協議会委員が集まる会合で依頼文と参考文をお持ちしお願いしたいと思う。

最終的に日程が決まったところで委員の皆さんもお集まり頂き今年度中に1回行えたらと思う。

大橋：去年一回顔合わせをして良かったと思ったが、実際に生涯審の方で学社一体を進めている中でまだ学校によっては温度差がある。このような文書を出さないで会議を進

めていくと、理解を得られないで学習館が一人で突っ走っている印象を受けてしまうと思う。自分が学校の長だったらこのように周りで動いていることは知らされな
いで、地域学校コーディネーターと西砂学習館だけが学校のことで話し合いをして
いたら、憤慨してしまうと思ったので文書で丁寧にお伝えする。文書で出すのならば
センター長にも確認して貰い文書を発行するべきと思う。手順としては良いと思う
し、センター長から他の5館に進めていく上では色々な形で行えたら良いし、一つの
示唆になる部分では石川係長にご尽力頂いて一回目の会合を開けるようになったら
ありがたいと思う。日程が調整出来たら係長と話をし一回目の会合で何をお話し
たらいいかを考える。コーディネーター・校長先生・副校長先生とどんな話をしてい
き、地域との連携や外からの支援等の部分で情報交換したり、話をしたりの状況が想
定される。或いはコーディネーターが学校の現場を見て何か支援があるかの話が聞
けると良いと考えている。係長と第一回目のご案内をする際に話を詰めていけたら
と思っている。会合が持てる段階まで来ていることがありがたいとの印象を持った。

加藤：地域学校協働本部連絡会はどこか。

大橋：それぞれの学校の中にある。誰がメンバーになっていてどのような活動を行って
いるかの実態が分からないが全部の学校に置かれている。コーディネーターも各学校に
入っているの、係長が文書を渡す。

加藤：11月26日は西砂・松中・7中が一緒に行うのか。

石川：市内全学校のコーディネーターが一同に集まる。今までは立川市の教育委員会の指導
課が取りまとめていたが、学校協働本部事業が生涯学習推進センターに渡された。セ
ンター長からのメールで今年の予算関係の理事者会合があった。その中で学社一体
により教育力の向上に向け学校支援ボランティア事業や地域学校協働本部事業を充
実させると共に地域学習館を中継点として地域人材と地域学校コーディネーターを
結び付ける取り組みを進めるとセンター長から理事者に話してくれた。他の学習館
では行っていない、センター長は西砂学習館に期待してくれている。幸学習館は始め
たところと話している。

加藤：11月26日は全学校が集まり、依頼文書を渡すのは3校だけですか。

石川：その通りです。副校長先生に事前に話してあり学校は了承済み。

大橋：コーディネーターが都合のつく日を事務局に出してきてくれるので、会議日を選定出
来るのではないかと思いますので一回目は2月までに開催できる。

加藤：企画運営委員会でも話題になっている。前のセンター長からも各学習館も西砂学習館
に習って顔合わせ等行ってほしいとあったが、結果的に行えてなくて私の記憶では
高松または幸で顔合わせを行おうとの動きをしているが実際にはまだ決まってい
ない状況と思う。センター長も含めて是非推進したいとの気持ちを持っていると思
うので上手く行えたらいい。

大橋：この中の文書や手順は他の学習館は参考になると思う。必要な書類も含めて他でも使

っていける。

広瀬：この会を進めていくのは大変難しいことと思うが、西砂学習館は大橋大校長がいるので大きな信頼もあり絶好のチャンスと思う。大橋会長がいなければ出来ないと思う。

増田：地域学校コーディネーターが市でも活動されていると思うが、お会いする前に活動内容をきちんと知りたいが、分かる方法はあるか。

大橋：何らかの冊子で調べられる。

増田：この地域だけでもいいが、内容や月に何回行っているかのメモ、活動記録等があれば分かり易い。私は聞いていてもイメージがわからない。初めにお会いしても話は出来ないだろうし今回は会長・副会長で進めて貰ってもいいが、次回からは見せて頂けたらありがたい。

大橋：一回目の時に増田委員がお話した部分を盛り込んで話を進めていけばいいと思う。

増田：事前に読んでから一回目の方がいい。全く活動内容が分からないのでコーディネーターについて知りたい。

加藤：私の知る限りでは各コーディネーターの役割は校長先生の意向やコーディネーターによってばらつきがある。絵を飾るだけのコーディネーターもいる。

増田：現実問題として全体がまとまっていなくても 7 中や松中小との関係がどのようになっているのかだけでも分かれば理解が進んでいく。

加藤：コーディネーターに事前アンケートを取る形が良いが参加することへの足かせになるかもしれない。

大橋：コーディネーターには西砂学習館で発表する立場で臨んで、増田委員は地域学校コーディネーターがどんな内容を行っているか分からない部分があるので、最初に委員の知りたいことやコーディネーターについて分かる形で伝えて貰えばありがたいのでこれから詰めていけたらいい。話して貰いたい内容や聞きたい内容があれば盛り込んだ形でご案内を出す。

増田：その点から始まるのですね。

加藤：その方向がいいと思う。行うプログラムの中の1つに入れていければいいし各コーディネーターもまだ理解されていない方が多いと思う。

広瀬：去年来てくれたコーディネーターで交代された方もいる。

加藤：会議よりも情報交換会になっている。

大橋：他の5館に手順を伝えたら上手に始められると思う。学校に話が出来た様になった時良いアイデアが出てくるし、良い関係が築けて新しい良い人材が発掘されると思う。活性化されれば子ども達が学ぶことがとても楽しくなる。西砂学習館にはいい人材バンクがあるので、次世代を担う小・中学生が生活したり学んだりすることが楽しくなるようにお手伝い出来たら良い。

石川：増田委員が要望されたコーディネーターの資料は用意出来ると思う。11月26日にコーディネーターが集まる会があり、会議録を見て頂くと一人一人話していく部分が

あると思うので、コーディネーターについて理解されると思う。次の運協で資料を提供したい。運営協議会委員の委員と地域学校コーディネーター、事務局、生涯学習係の梅沢さんも時間が合えば参加されたいとの希望なのでさらに活性化されると思う。

大橋：冊子を文章化されるものを具体化することだし、いいことを話してくれているが手探りで進めている感じである。文言は簡単だけど具現化するには沢山の手順を踏んでやっと1回目が行えると思う。1回のみだと中身は形にならないので相当の回数か時間が必要。

(3) 「西一元気通信～西砂学習館便り～」発行に向けて（協議）

石川：前回の会議で小林委員に習字でタイトルロゴを書いて貰うことになり、本日小林委員に書いて頂いたものが黒板に掲示してある。アルファベット表記もあるので横書きで決定的話があった。「立川市障害者後援会ニュース」参照。横書きだけでなく縦横自在にあると会報の形になる。縦横書き両方の形で便りを出したい。内容について大橋会長が案を作成。最後の方にもっと柔らかい言葉にしたいとの記載があり、主旨内容の表現を変えて第一回目の会報にしたいと思う。

大橋：ロゴが横書きなのでそのまま使い、記事内容は縦横書きの両面印刷で発行。縦横書きが一緒になっていれば内容は作り易い。一回目の元気通信は何のためにどこが出しているかと何を知らせるかを考えて書いた。内容が固くなってしまったので若い人に読んでもらい表現を柔らかくして貰うと良いと妻からアドバイスを貰った。

初月号を出す時になぜこの発行物が出てきたとの話や何処が発行している便りなのか記載は必要。西砂学習館が不定期に出していて、対象の「西」は西砂町・「一」は一番町を指していて、通信発行理由は学習館では色んな講座や活動が進められているが、紹介するための通信ではなくもう一つの活動を紹介するため、理由は西砂学習館運営協議会が企画実施する講座等活動の様子や地域における西砂学習館の役割についての紹介になる。このようなことを伝えたい通信になっている。西砂学習館運営協議会を学びの拠点として10名の委員が地域を作る為に或いは地域の課題を解決するための会議である。

講座を作る時に四つの柱を掲げていて、一つ目が地域の居場所作り、二つ目が地域再発見、三つ目が新しい住民の地域デビュー、四つ目がその他の活動（防災や認知症予防講座など）を柱にして、子ども・高齢者・子育て世代を縦軸に三つの世代を対象とした地域活性化講座を企画・立案・実施した中身を通信で紹介する。

西砂学習館の役割は生涯に渡り学び続け地縁で繋がった住みやすい地域社会で学び生活する子ども達が多く知識・技能生きる力を持った地域の皆さんから豊かな支援や援助を受け、この地で学び育っていくことが楽しくなりこの地域がもっと好きになり更に大事にしたいと思う大人に育っていくことに支援していきたい。そのような学びの地域循環型社会を作るのに西砂学習館が地域の拠点として子ども達と

地域の大人を結び付けるような仕事出来るのではないかと考えている。まだ形は見てないが地域の方に力をお借りし学校と地域の結びつきが形になることを願っている。上記のことを知らせる通信ではないかと思えば作ると固い文書になってしまった。キーワードだけ使い柔らかい形になればと思うし第一回目はスタンスを抑えたい。

小林：写真等を入れると柔らかくなっていくと思う。

増田：最初が肝心と思う。難しいかもしれないがどのようにコンタクトを取って参加したらよいかの参加手引きガイドのようなものを作って貰えたらいい。

大橋：寝ても覚めても通信をどのようなものにしたら良いのかを苦慮していて、どうしても堅苦しい文書になってしまう。

小林：横書きばかり、縦書きばかりだと抵抗が出てしまうので、丁度半分ずつくらいの割合にしたらい。

広瀬：大橋会長が考えられた通信はとても良いと思う。簡単な言葉で分かり易いのが街づくりだと思う。街づくりのワードがどこかにあるととてもいいと思う。サマーイベントや野仏の講座の内容を理解してもらう為にも写真を入れたらいいと思う。

大橋：一回目なので余分な場所を取ってより多くの人に理解して貰うことが大事と思う。

長谷川：メンバーの構成を見て第1号委員や第2号委員の意味を再確認した。

石川：文書を柔らかくするのにキャラクターに話して貰う形にして「西一元気通信〇〇です。初めましてこれから大事な話をするよ！」と語り調がいい。キャラクターにしゃべらせるとスーッと入ってくる。

大橋：柔らかくする為のいいアイデアを考えることは宿題に。

森：お茶の葉と花のイラストを入れるといいと思う。キャラクターはお茶の葉の妖精がいいと思う。

長谷川：文化会の主催でお茶摘みをして煎ったり葉を天ぷらにしたりの催物をしている。

大橋：立川に麦もあるけど、何で麦ではないのか。

長谷川：麦は青少健で使っている。

広瀬：毎回思うが広報は一面からビジュアルを全面的に行っている。他でもなかなかない。西一通信は裏表面しかないしいっぱい書くことがあるので全面的にビジュアルを行う必要はないと思う。

大橋：上記を踏まえた上で宿題とするので考えてみましょう。

(4) フリースペースについて (報告)

小林：報告はないです。出られるようになったら頑張ります。

(5) 報告及び連絡事項

加藤：7月から西砂学習館で広瀬委員から引き継ぎいだクラシック音楽入門講座を行った。

丁度コロナが始まった頃で、定員 30 名に減らして実施した。参加者数は 1 回目は 25 名位、1 回目と 3 回目は先生が風邪をひいてしまい、コロナの時期だったので延期をしたこともあり実質的な 2 回目からは参加者が 15 名程に減った。3 回目以降の参加者には変更したチラシを配った。参加してくれていない人には伝えていないこともあり実質的な 2 回目から人数が減ってしまった。やり方等がコロナ禍での大きな課題となっている。

幸学習館で 12 月にレクチャーコンサートがあり、すぐに定員に達した。コロナで変更が生じる中で上手に運営していく必要があると思う。

広瀬：コロナ禍での高齢者の過ごし方がいろいろとあるが、相当コロナを警戒しなくてはいけないため外に出てこない人もたくさんいると思う。講座の定員を半分にしたり、Z o o mで行うことも増えている。先日社会福祉協議会の方をお願いしてフレール（健康な人と不健康な人の丁度真ん中）な人の話をして貰った。相当トレーニングをしても、社会参加をしていないと社会参加をしている人よりも病気になり易いとの研究結果が出ている。どうしても社会参加が必要になってきている。委員や学習館は社会参加の場を沢山提供しないといけない。社会福祉協議会は感心するくらい沢山、場を提供しているが作って続けていくことは大事で、コロナに気を付けながらの兼ね合いが大変と思う。

進藤：一番町北住宅で以前子育てひろばだったところが 3 月で閉所になり、今空いているので高齢福祉課の担当係長と打ち合わせをし、利用出来ることになりなった。地域の方とどのように活用していくかの会議は来週。12 月 1 月くらいから少しずつ地域の団体にお試しで使って頂き、新しく何か行いたい人がいた場合にお声掛けして使ってもらえる貸館のような場がまた一つ出来る。

小笠原：児童館は 8 か月ぶりの中型行事のハロウィンフェスティバルを敢行した。申込は 45 名、キャンセル待ち含めると 53 名の申し込みを頂いた。当日にキャンセルは出なくて、子ども達は行事に飢えてたなあと感じた。児童館の 2 階にブラックライトを当てるとモンスターが浮かび上がるような大掛かりな装置を職員と作った。事故もコロナもなく無事終えることが出来た。次の行事のクリスマスパーティーが 12 月に 2 つ控えている。1 つは児童館行事で例年は 150 名位の大規模に参加して頂いていたが、申込制にして最大 100 名まで、1 回 30 分くらいの交代制で入れ替える形にして 100 名まで迎えられたらいいねと企画を立てている。工作・ゲーム等のミニお祭り風を予定している。もう一つは去年も行った乳幼児向けの行事でクリスマスファミリーコンサートを予定。コロナ禍なのでやり方を模索していたところ、高松学習館の地域運営協議会主催で高松ファミリーコンサートが 11 月 14 日に開かれているとの情報を耳にし見に行ってきた。舞台の前に飛散防止用の透明の幕を活用していた。表現者はここまで行わなくてはいけないと思ったと同時に私たちでもここまでやればできると感じ、半分くらいの定員に狭め、2 回公演にし少しでも沢山の方に楽しんで頂

けたらと思う。

来年度児童館の利用申請、学童保育所ではランドセル来館の利用申請受付が始まった。大分学童の方にも申し込みが来ている。子育てひろばで育った子たちだとか知っている子たちの弟・妹がどんどんと入って来るようになったなど思う。世代の移り変わりを感じているところ。

長谷川：11月3日に中学生の主張大会が今年も行われ、無観客で間隔を広く行ったとのことだった。委員長からメールで結果の報告を頂き今年の市長賞第1位は5中三年生の方が受賞された。西砂川地区からは1名が発表の場に立ち12位だった。

大橋：西砂川から発表した方の作文は身近なところから世界を知るお話で、日本では税金で一人当たり7,802円の教科書が無償で配布されていることを自身は知らなかったが、世界に目を向けて実際に学校にいけない子ども達もいる中で自分たちが出来ることは何なのか、ランドセルや洋服の寄付が出来るのではないかと思ったとの内容を発表してくれてとても良いと思った。

長谷川：7日に7中の学校運営協議会があり、授業参観にも参加。その後横田めぐみさんの弟の横田拓也さんの講演会を聞いた。親目線の講演会と違った弟さんの目線でめぐみさんがいなくなった時とその後の事を話して下さった。一つ間違えばめぐみさんではなくて誰が連れていかれた分からない状況の中で、普通に学校に出ていっただけなのに帰ってこない。警察犬に調べて貰ったら家のすぐ近くでにおいが消えていたとのこと。拉致と認定される・国民に知って貰うまで被害者の方以外は誰も本当の出来事と思って下さらない、信用して下さらないことがあったのに、2000年あたり北朝鮮が認めた時に被害者の横田さんは本当のことを言っていたとやっと信じて貰えた。自分の子が返って来ないのに、まるで嘘、偽りを言っているような目で見られた時期はとても辛かったのだろうと感じた。講演中の7中生の態度は誰もよそ見をすることなく聞いていた。最後に代表の生徒が横田さんにお礼のご挨拶をしたが用意された文章を読むのかと思ったが、マイクを受け取り4人くらい順番でしっかり自分の言葉で感謝の気持ちを話していた。大人でも容易に出来ないことが出来てとても感心して聞かせて頂いた。その後運営協議会に出席。コーディネーターについて7中の副校長先生が好意的なお話をして下さいました。7中の子ども達は挨拶も出来るし、一生懸命で良い子ばかりだが、その中でも少し他の人の手を借りたい生徒がいるのかなと思、地域の人が入っていければ良いのかなと感じた。

青少健はこの後役員会も含めて何も予定はないので先々の予定は不透明。

大橋：7中の先生と横田さんとの関係が続いておりました。

長谷川：横田さん夫妻の体調が悪く1回関係が途絶えたが拓也さんの時代に移っても、取材の依頼が多い中、7中とはずっと続けて貰っている。

大橋：地元の新潟ではめぐみさんの同級生たちが拉致問題に取り組んでいる。新聞やマスコミに取り上げられるような活動になっている。7中は以前から自分のことを読んだ感

想や自分なりの考えた声を新聞に投稿していたことを通して、人前で自分の考えを堂々とお話出来る。いい活動をしていると思った。

加藤：実を言うと私はめぐみさんの隣の中学校に通っていた。地元の話をよく聞いていて初めは家出をしたとの話になっていた。家族が一生懸命探していて後から拉致されたと分かった。隣の中学校で且つ家もそんなに離れていない。もっと若かったら自分だったかもしれないと思った。

長谷川：子ども達も生の声を聞かせてもらおうと、今普通に生活していることが幸せなことだと分かると思う。知らない国に13歳の子が連れていかれ本当に恐ろしい事と思った。

小林：気管支炎の持病があるのでなるべく外に出ないようにしている。委員の方から電話があり気を使って頂いていることに感謝している。近所の方がお使いを引き受けてくれ、お返しに夕飯を作り一週間に二回くらいはお盆を持って取りに来て貰っている。コロナにも罹らず割かし元気にやっている。知らない不動産屋から何回も迷惑な電話がかかってきて恐ろしい時代だなあと思う。

森：西砂パソコン倶楽部では今月は本日活動をした。10名が参加。ワードで画像の編集や、写真の加工をして好評だった。来年2月まで教室が取れているありがたいことに毎月10人以上の方の申込があり、本当は第1教室を常に取りたい位なのだが会議室になってしまう場合もあり定員に気を付けながら進めている。月1回皆で話し合いながら楽しいなと言って下さる方がいらっしやると、頑張っ続けていかなくてはいけないと思う。来年4月分くらいまでは内容も決めてあり、出来るだけ普段の生活の中で中高年の方が使えるような題材で上手く行っていけたらと思う。

増田：たちかわ・財政を考える会では、加藤委員のおかげで予定通りスケジュールを行えている。直近では10月24日(土)に立川市財政課の課長から2019年度の決算についてお話を頂いた。22日は都議会に選出されている清水こうじさんに市民がどの様に参加したら良いのかを題材に女性センターアィムでお話を頂く。今年中には企画政策課の課長から長期総合計画が後期に入るが進捗状況のお話を頂き、それに対しての質問をする。立川市の意外と職員の方が参加されないので参加頂き、何を心得て幸せを考えていくのかを皆で話し合っご参加頂けたらと思う。

石川：一番福祉会館が老朽化のために改修工事をするという事で12月～2月が休館になる。その間が一番福祉会館のサークルや講座等で西砂学習館を利用する。

理事者ヒアリングでWi-Fiを入れようと話がでている。2つの学習館に来年導入予定。Wi-Fiが入るとオンライン講座でも使えるようになるので面白い使い方が出来るかと期待。

俣本：10月31日にシングルマザー対象「サクッと時短で楽うまごはん」を実施。コロナ禍の料理教室は注意することも多かったが問題なく無事に終えることができた。12月には子どもを対象にこいけけいこ先生の即席めん簡単アレンジの講座を予定。定員を減らして8名にした。現在キャンセル待ちも含め定員に達した。

その他

次回 12月22日(火) 18:00～